

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600349		
法人名	有限会社ナチュラルライフ		
事業所名	グループホーム香寿	ユニット名	海
所在地	静岡県磐田市平間1259-1		
自己評価作成日	平成22年1月14日	評価結果市町村受理日	平成22年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年1月30日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活様式やその方のこだわりを大事にし、出来るだけ変えない様にする為、使い慣れた馴染みのある物の中で生活してもらいます。生活面でも自然な生活リズムを大切にし、起床時間、就寝時間、食事時間を決めず、ゆったりと一日を過ごして頂きます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い畑と遠くに工場が見え住宅の少ない立地条件の中、今まで希薄だった自治会との交流や、運営推進会議も定期的開催されるようになり、管理者や職員の努力が伺える。くつろげる家らしく事業所全体がゆったりとした、穏やかな雰囲気が漂っている。今までユニットの職員固定化はされていなかったが今年から固定化が始まり、今後どのように変化していくのか、ユニット毎の変化がどのように生まれてくるのか、楽しい事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という法人の理念に加えて、事業所独自のケア理念を事務所に掲示し、常に確認している。また具体的に10項目のケア目標として表し、実践に取り組んでいる	法人理念、事業所独自のケア理念を掲げている。「理想ではなく本当に！」というケア方針の基に10項目の具体的なケア目標を作成し、日々のケアが理念に基づき実践できるような取り組みがされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧物は自治会長が持参してくれるが、隣接する住宅が無く、回覧板等のやり取りは行われていない。認知症についての講演会、地域の祭典への参加等、交流に努めている	自治会に加入しており、自治会長の事業所に対する理解はあるが、隣接する住宅がほとんどなく地域住民との交流が難しい立地である。自治会の認知症の講演会の講師を務めたり、利用者が祭りに参加するなど積極的に交流できる努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で毎年一回行われる勉強会の講演者をさせて頂き、公民館にて認知症について話をさせて頂いた。今後も続けていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、三地区自治会代表、市長寿推進課職員、地域包括職員、家族代表、職員、地域消防署所長等の参加により開催しているその際の参加者の声をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的に開催している。3地区自治会長、市担当職員、家族代表、地域包括センターの参加がある。そこでの内容は、全職員が把握できるようにし、日々のケアに反映され、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者を訪ねたり電話連絡等を頻繁に行い、情報交換やアドバイスを受けるなど、関係作りを積極的に行っている	市担当職員との電話連絡は、最低週1回以上と頻繁に行い、情報交換やアドバイスを積極的に受け、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をし、拘束に繋がる様な行為が無い様、スタッフ一同心がけている 玄関の施錠は夜間帯のみしている	日中は玄関、門扉とも施錠されておらず、門扉にはセンサーが設置されている。玄関に通じる居間には必ず職員がいて見守れるようにし、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。「身体拘束ゼロ」を宣言し、勉強会を実施し、全職員が共通の理解を持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修へ参加している必要に応じて対応する職員を交代する等して虐待が起こらないよう防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は作っているが、今まで日常生活自立支援事業も成年後見制度も実際に利用したケースはない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時、必ず丁寧な説明、質疑応答をし、ご家族様にご納得頂いてから実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の訪問時に話したり、運営推進会議の際に意見を言ってもらえる様にしている 伺った内容は、申し送りノートにてスタッフに周知させている	運営推進会議や面会時に、家族が意見を言いやすい雰囲気づくりに心がけている。出された意見、要望等は会議で話し合い、全職員に周知され反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度話す場を設けている	職員の意見や提案はその都度管理者が聞くようにしている。月に1度の法人会議でそれらを発表、検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に研修スケジュールを組んだり役割を作る事により、それぞれの希望や能力に合った条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の充実を図り、業務を通じて必要な知識や技術、心構えを学べるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や行政主催の連絡会に参加する機会を増やしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人面談やご家族からの情報収集をし、本人が直接訴えられる事以外にも、生活歴や性格を元に、本人の気持ちを考え不安に思っている事を探る様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族に、困っている事や要望等を尋ねながら密に連絡を取り関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階で、ご本人様にとってどうかを一番に考え、必要と判断した場合には、他のサービスの説明や紹介もしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、出来る事は行ってもらっている 時には職員が入居者様に励まされる事もあり、一方的に介護をする、される立場ではない関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を伝えて行きながら、家族からも情報をもらい、情報を共有し一緒に本人を支えて行く関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも兄弟に電話したり、友人に面会に来てもらったり、家族にも協力してもらいながら、馴染みの場所へ出掛けられる様支援している	利用者の希望があれば、家族に了解を得て兄弟や友人に電話をして、継続的な交流ができるよう支援している。お墓参りに行ったり、利用者の生活習慣を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士でユニットに関係なく過ごせる様にしている。 孤立してしまいそうな時には職員が間に入り関係を取持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方にも必要があれば相談や支援が出来る様努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望を聞いたり困難な時には家族から情報を得たりして本人の希望の把握に努めている	理念にもあるように、「利用者本位」を第一とし、言葉や表情などから意思の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者には家族や友人などから情報を得て本人の意思が尊重されたケアができるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や本人、担当ケアマネ、利用サービス先の職員から、今までの生活歴や好みの物、生活習慣等の聞き取りをし、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ない事、心身の状態、日々の変化に気付ける様現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人、スタッフの意見を取り入れながら、介護計画を作成している	利用者の状況の変化に応じ、随時検討され、介護計画が見直されている。家族の要望などにも柔軟に対応し、現状に即したケアができるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状態の変化等、毎日記録を個別に残しておき、職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に出来る限り答えられる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院や店、移動式パン屋等の利用をしたり、地域の行事にも参加させてもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約をしている協力医療機関以外でも、ご家族やご本人の希望があれば、違うかかりつけ医を選んでもらっている 必要に応じて受診や医師への相談を行っている	事業所のかかりつけ医の他、入居前の主治医に受診することは可能となっている。基本的に付き添いは家族が行うようになっているが、家族の都合が悪い場合は職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とも情報の共有をし、必要に応じて受診や医師への相談をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、何度も病院に足を運び、病院関係者との情報交換や相談を密にしている さらに普段から病院関係者との協力体制を築く様努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時より、ご家族と話し合い方針を共有し、家族の意向の変化が無いが、その後も話し合いを繰り返す様に努めている	入居時に事業所の方針を説明しサインをもらっている。状況の変化に伴い、随時話し合い、方針の変更はされているが、その都度の確認書は作成されていない。	今後は、重度化に伴い、随時本人や家族の意向を確認し、安心して納得した最期を迎えられるように、書式を整え、記録を残すことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際に起こるケースが少なく、全ての職員が高い実践力を身につけているとは言えないが、対応マニュアルはすぐに確認出来る場所に設置し、管理者等にも連絡や指示を仰げる様24時間体制を整えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、自治会長や行政の方にも参加してもらっている	年3回(火災訓練2回、震災訓練1回)の避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練もされている。訓練には自治会の参加もあり、災害時の飲料水の供給の協力もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という事を心に留めて、言葉かけや対応に注意している	声かけや対応には十分配慮し、廊下等で歩行中の利用者を追い越さないよう注意するなど、本人のプライドを傷つけないような配慮がされている。研修にも少人数で参加し、研修内容が徹底される工夫がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時、入浴時、買い物や散歩、昼寝やトイレ等生活のいろいろな場面で入居者が自分で選べる様な声かけ働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩、入浴等希望にはなるべく浴う様にしている。その一方で本人の生活リズムが崩れない様に気をつけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の長い方は結んだり、美容院へ出掛けて散髪したり、ヒゲを剃ったり、マニキュアを塗ったりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食事の準備(野菜を切ったり)から一緒に手伝ってもらい、片付けも一緒にやっている	利用者ができる範囲でテーブルを拭いたり食器を洗うなど、職員と一緒に準備、片づけを行い、同じテーブルで楽しく食事している。献立は、法人の栄養士が作成し、栄養管理されているが、利用者の好みに合わせるなどの柔軟な対応もされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やお茶の時間にこだわらず、お茶やコーヒー、ジュース等の飲み物を勧めたり、食事量の少ない時には食べれる物を補食で勧めたり、食べやすい様、個別に食事形態を工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の口腔ケアはしているが、毎食後は出来てない日もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個別の排泄パターンを探りながら、トイレで排泄出来る様になっている。 日中のみ、オムツからパンツに変更出来た人がいる	トイレでの排泄を大切に、声かけによる誘導を行い、おむつからパンツに変わった利用者もいる。紙パンツやパット類も、何種類か用意し、利用者にあったものが選べるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い物を食事やおやつに出したり、水分を多く摂ったり、腹部マッサージを行う		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は固定せず、希望に合わせて入浴出来る様になっている 夜間に関しては職員の人数が減り、希望されても入れない時がある	利用者のその日の希望を確認し、入浴の支援をしている。浴室が、十分な広さがないため、湯舟に入れない利用者が増えてきている。シャワー浴や清拭、足浴等に対応しているが、目標としている最低週3回の入浴がされていない利用者もいる。	入浴といえば一般に湯舟に浸かることを指し、そこに、入浴の喜びを感じると考えられる。2ユニットのどちらかにそれ用の設備を整えるなど、利用者全員が安全で満足できる入浴ができるような援助を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも疲労感が強い時には居間や居室で休んでもらったり、居室や寝具を清潔に保ち気持ちよく休める様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を処方された際に配布される効能や用法についての説明に目を通し、分からない所は主治医や薬剤師に確認し理解に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせて、役割を持ってもらったり、散歩したりお酒を飲んだりしている 去年から行事開催に力を入れる様にしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩等、ご家族にも協力してもらい、出来るだけ戸外に出かけられる様に努めている しかし、良く出る人とあまり出ない人との差がある	職員が付き添い、希望者と買い物に出かけている。面会の際、家族と外出できるような支援もしている。外出困難な利用者には庭を散歩できるようにし、気分転換が図れるよう援助している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には、高額にならない程度でお金を所持してもらい、買い物に出かけたりして、本人の好きな物を購入してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話する事を希望される方には事務所の電話を利用してもらっている 現在、手紙のやり取りを希望される利用者の方はいない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や温度に考慮している 五月人形やクリスマスツリーは出しているが、もう少し季節物の飾りを増やしたい	管理者の方針により、掲示物が少なくすっきりしている。五月人形やクリスマスツリーは飾られるが、季節感に乏しい。趣味に興じる利用者もほとんどなく、生活感もあまり感じられない。	管理者は今後、季節の生花を室内に飾ることによって季節を感じてもらいたいと考えている。利用者のストレスにならない程度の五感への刺激や心身の活力を引き出す援助のために、生活感や季節感を伴った空間が作られることを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とは別に居間があったり、廊下にベンチを置いて他者とは少し離れて過ごせる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れた馴染みのある物を持参してもらい、本人が安心して過ごせる様な環境を作る様にしている	布団やベッド、タンス等は、昔からの馴染みの物が使用されている。仏壇が置かれた居室もあり、利用者は毎日朝食前に水替えを行うなど、入居前の生活習慣が維持できるよう配慮され、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かりやすい様に表札を付けている 夜間は、トイレのドアを開けておき、自分でトイレに行きやすいようにしている		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600349		
法人名	有限会社ナチュラルライフ		
事業所名	グループホーム香寿	ユニット名	太陽
所在地	静岡県磐田市平間1259-1		
自己評価作成日	平成22年1月14日	評価結果市町村受理日	平成22年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活様式やその方のこだわりを大事にし、出来るだけ変えない様にする為、使い慣れた馴染みのある物の中で生活してもらいます。生活面でも自然な生活リズムを大切にし、起床時間、就寝時間、食事時間を決めず、ゆったりと一日を過ごして頂きます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」という法人の理念に加えて、事業所独自のケア理念を事務所内に掲示し、常に確認している。また具体的に10項目のケア目標として表し、実践に取り組んでいる	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧物は自治会長が持参してくれるが、隣接する住宅が無く、回覧板等のやり取りは行われていない。認知症についての講演会、地域の祭典への参加等、交流に努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で毎年一回行われる勉強会の講演者をさせて頂き、公民館にて認知症について話をさせて頂いた。今後も続けて行きたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、三地区自治会代表、市長寿推進課職員、地域包括職員、家族代表、職員、地域消防署所長等の参加により開催しているその際の参加者の声をサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者を訪ねたり電話連絡等を頻繁に行い、情報交換やアドバイスを受けるなど、関係作りを積極的に行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をし、拘束に繋がる様な行為が無い様、スタッフ一同心がけている 玄関の施錠は夜間帯のみしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修へ参加している必要に応じて対応する職員を交代する等して虐待が起こらないよう防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は作っているが、今まで日常生活自立支援事業も成年後見制度も実際に利用したケースはない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時、必ず丁寧な説明、質疑応答をし、ご家族様にご納得頂いてから実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の訪問時に話したり、運営推進会議の際に意見を言ってもらえる様にしている 伺った内容は、申し送りノートにてスタッフに周知させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度話す場を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に研修スケジュールを組んだり役割を作る事により、それぞれの希望や能力に合った条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の充実を図り、業務を通じて必要な知識や技術、心構えを学べるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や行政主催の連絡会に参加する機会を増やしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人面談やご家族からの情報収集をし、本人が直接訴えられる事以外にも、生活歴や性格を元に、本人の気持ちを考え不安に思っている事を探る様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族に、困っている事や要望等を尋ねながら密に連絡を取り関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階で、ご本人様にとってどうかを一番に考え、必要と判断した場合には、他のサービスの説明や紹介もしている		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、出来る事は行ってもらっている 時には職員が入居者様に励まされる事もあり、一方的に介護をする、される立場ではない関係を築いている		
19		○本人を共にえあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を伝えて行きながら、家族からも情報をもらい、情報を共有し一緒に本人を支えて行く関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも兄弟に電話したり、友人に面会に来てもらったり、家族にも協力してもらいながら、馴染みの場所へ出掛けられる様支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士でユニットに関係なく過ごせる様にしている。 孤立してしまいそうな時には職員が間に入り関係を取持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方にも必要があれば相談や支援が出来る様努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望を聞いたり困難な時には家族から情報を得たりして本人の希望の把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や本人、担当ケアマネ、利用サービス先の職員から、今までの生活歴や好みの物、生活習慣等の聞き取りをし、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ない事、心身の状態、日々の変化に気付ける様現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人、スタッフの意見を取り入れながら、介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状態の変化等、毎日記録を個別に残しておき、職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に出来る限り答えられる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院や店、移動式パン屋等の利用をしたり、地域の行事にも参加させてもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約をしている協力医療機関以外でも、ご家族やご本人の希望があれば、違うかかりつけ医を選んでもらっている 必要に応じて受診や医師への相談を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とも情報の共有をし、必要に応じて受診や医師への相談をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、何度も病院に足を運び、病院関係者との情報交換や相談を密にしている さらに普段から病院関係者との協力体制を築く様努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時より、ご家族と話し合い方針を共有し、家族の意向の変化が無いが、その後も話し合いを繰り返す様に努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際に起こるケースが少なく、全ての職員が高い実践力を身につけているとは言えないが、対応マニュアルはすぐに確認出来る場所に設置し、管理者等にも連絡や指示を仰げる様24時間体制を整えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、自治会長や行政の方にも参加してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という事を心に留めて、言葉かけや対応に注意している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時、入浴時、買い物や散歩、昼寝やトイレ等生活のいろいろな場面で入居者が自分で選べる様な声かけ働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩、入浴等希望にはなるべく沿う様にしている。その一方で本人の生活リズムが崩れない様に気をつけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の長い方は結んだり、美容院へ出掛けて散髪したり、ヒゲを剃ったり、マニキュアを塗ったりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食事の準備(野菜を切ったり)から一緒に手伝ってもらい、片付けも一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やお茶の時間にこだわらず、お茶やコーヒー、ジュース等の飲み物を勧めたり、食事量の少ない時には食べれる物を補食で勧めたり、食べやすい様、個別に食事形態を工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の口腔ケアはしているが、毎食後は出来てない日もある		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個別の排泄パターンを探りながら、トイレで排泄出来る様になっている。 日中のみ、オムツからパンツに変更出来た人がある		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い物を食事やおやつに出したり、水分を多く摂ったり、腹部マッサージを行う		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は固定せず、希望に合わせて入浴出来る様になっている 夜間に関しては職員の人数が減り、希望されても入れない時がある		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも疲労感が強い時には居間や居室で休んでもらったり、居室や寝具を清潔に保ち気持ちよく休める様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を処方された際に配布される効能や用法についての説明に目を通し、分からない所は主治医や薬剤師に確認し理解に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせて、役割を持ってもらったり、散歩したりお酒を飲んだりしている 去年から行事開催に力を入れる様になっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩等、ご家族にも協力してもらい、出来るだけ戸外に出掛けられる様に努めている しかし、良く出る人とあまり出ない人との差がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には、高額にならない程度でお金を所持してもらい、買い物に出かけたりして、本人の好きな物を購入してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話する事を希望される方には事務所の電話を利用してもらっている 現在、手紙のやり取りを希望される利用者の方はいない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や温度に考慮している 五月人形やクリスマスツリーは出しているが、もう少し季節物の飾りを増やしたい		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とは別に居間があったり、廊下にベンチを置いて他者とは少し離れて過ごせる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れた馴染みのある物を持参してもらい、本人が安心して過ごせる様な環境を作る様にしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かりやすい様に表札を付けている 夜間は、トイレのドアを開けておき、自分でトイレに行きやすいようにしている		